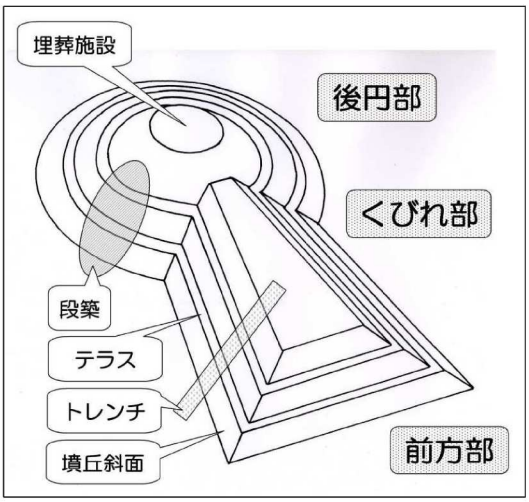
国指定史跡

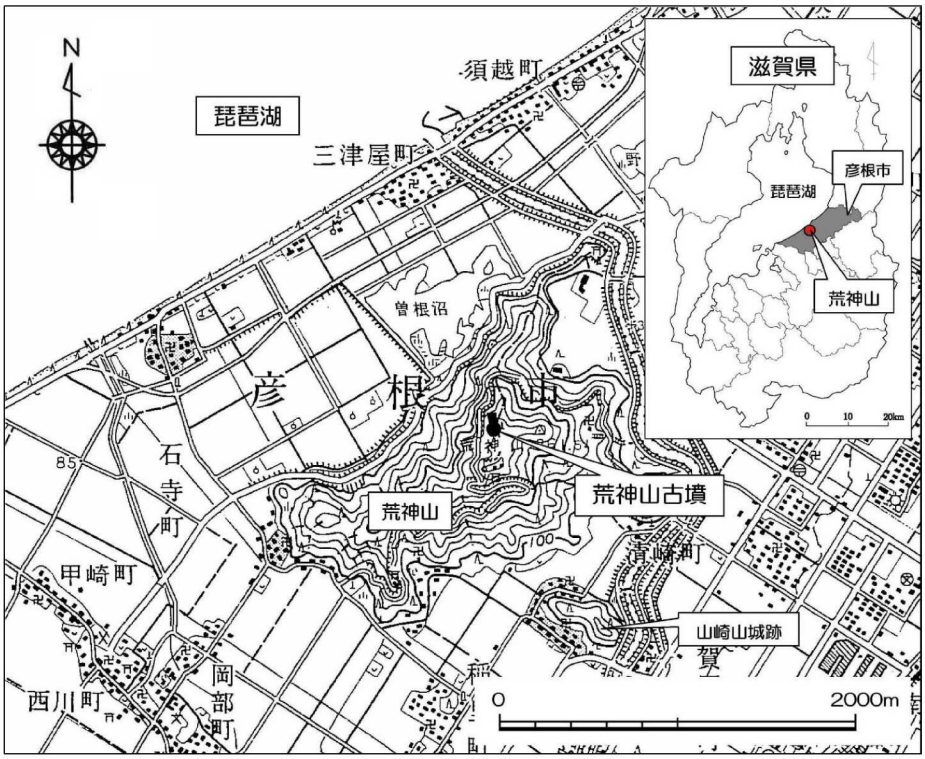
荒神山古墳

Ⅰ　はじめに

荒神山古墳は、彦根市の西方、琵琶湖岸に近い湖東平野の独立丘である荒神山（標高 284.1m）の山頂から、北へ約 150m下った尾根頂部に位置しています。彦根市教育委員会では、平成 15 年度～平成 19 年度にかけて４度にわたり、古墳の範囲確認を目的とする発掘調査を実施しました。調査の結果、荒神山古墳が全長 124mを測る前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）であること、築造時期は古墳時代前期末（４世紀末）であること、墳丘は葺石（ふきいし）で覆われ、前方部・後円部とも３段に築かれていること、各段のテラスには埴輪（はにわ）が巡っていたことなど、重要な発見が相次ぎ、平成 23 年２月に国の史跡指定を受けました。本市では「彦根城跡」「彦根藩主井伊家墓所」に次いで３件目の国史跡となり、彦根南西部地域では初めての指定となります。



前方後円墳用語説明



荒神山古墳位置図

Ⅱ　荒神山古墳の概要

◆ 古墳の規模 ◆

荒神山古墳は、主軸を北北西ー南南東に置き、前方部を北西に広がる琵琶湖に向けた前方後円墳です。古墳の各部位の計測値は次のとおりです。

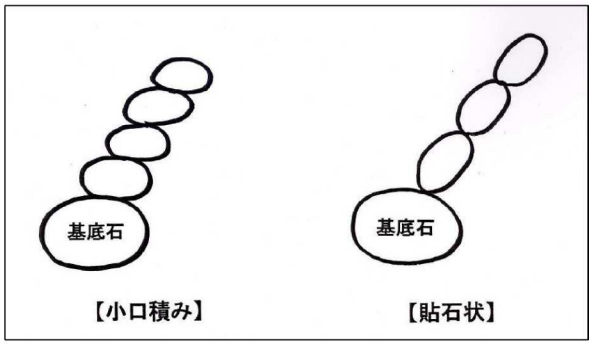
全長：124m	前方部長：約 53m		後円部径：約 80m
	前方部長：約 61m	くびれ部幅：約 52m	
	前方部高：約 10m	くびれ部高：約 9m	後円部高：約 16m

◆ 段築（だんちく）◆

荒神山古墳は、尾根を整形して基底部とし、その上に前方部・後円部ともに２段のテラスと墳頂平坦面を設けた、「３段築成」を採用した前方後円墳であることが判明しました。基底部は標高262m～264m で、その上約４m に１段目のテラスを、さらに約３m 上に２段目テラス、そして墳頂平坦面を設けています。後円部の２段目テラスと墳頂平坦面の比高差は 8.5m と際立っていますが、多量の土砂が崩落していることを考えると、築造当初の後円部墳頂はさらに高かったと考えられます。

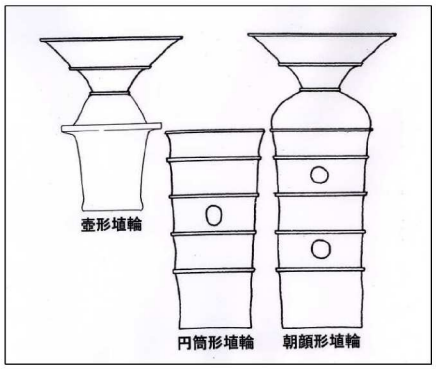
◆ 葺石（ふきいし）◆

発掘調査の結果、かつて荒神山古墳の斜面には、葺石が葺かれていたことが判明しました。葺石の葺き方は、これまでの調査で２種を確認しています。１つは「小口（こぐち）積み」の手法によるもの。葺石の小口を外側に揃えるように下から上へ積んで行く方法です。もう１つの葺き方は、盛土に貼り付けるように覆う「貼石状」の葺き方です。小口積みがより古相を示していると言われており、荒神山古墳は一部に小口積みを残しつつ、全体としては貼石状に葺く手法へ移行していると推測されます。



葺石模式図

◆ 埴輪（はにわ）◆

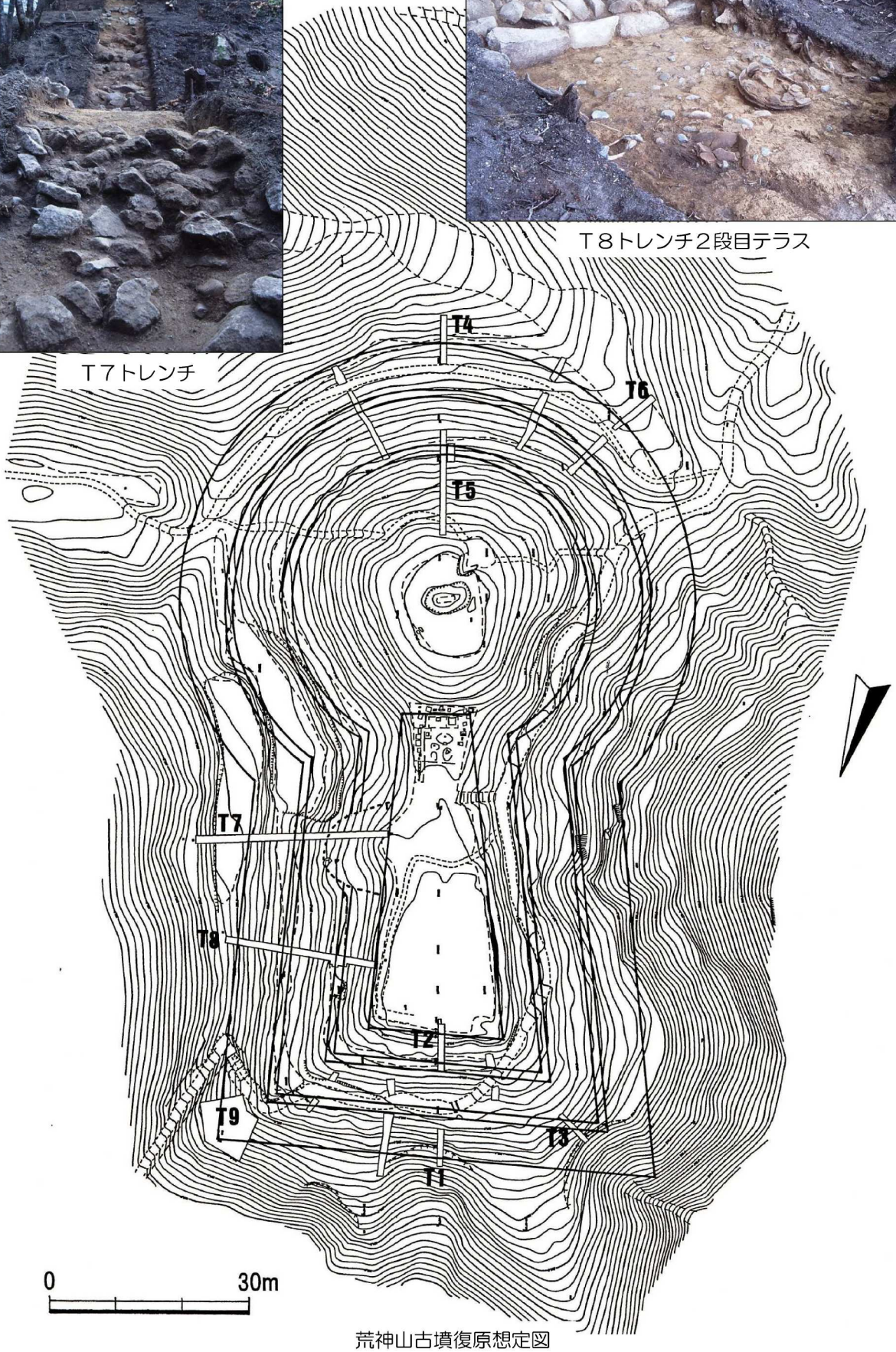


埴輪模式図

荒神山古墳では、各テラスを中心に円筒埴輪（普通円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪）・壺形埴輪・形象埴輪（家形埴輪・蓋形埴輪・靫形埴輪・不明埴輪）が出土しました。調査では、ほとんどの埴輪片が葺石や多量の土砂とともに下方へ崩落した状態で出土しており、埴輪が設置された当初の原位置をとどめていたのは、わずかに７個体のみでした。その中で、Ｔ５トレンチ：２段目テラスとＴ８トレンチ：２段目テラスでは埴輪列が確認されました。各トレンチから出土した埴輪の位置・状況より、荒神山古墳では前方部、後円部ともに墳丘の墳頂部、２段目テラス、１段目テラスで埴輪列が巡っていたと考えられます。現在のところ、近江地域で埴輪の多量配列が確認できる最古の前方後円墳ということができます。

Ｔ７トレンチ

Ｔ８トレンチ２段目テラス



荒神山古墳復原想定図

◆ 埋葬施設 ◆

古墳の主を葬った場所を埋葬施設と言います。荒神山古墳には、後円部の墳頂平坦面の中央付近に楕円形の窪地があり、埋葬施設の盗掘坑（とうくつこう）と考えられます。これまでの４度の調査では、古墳の範囲確認を主目的としたため、埋葬施設の調査を実施しませんでしたが、今後、詳細な調査が実施される可能性があります。

Ⅲ　荒神山古墳の意義

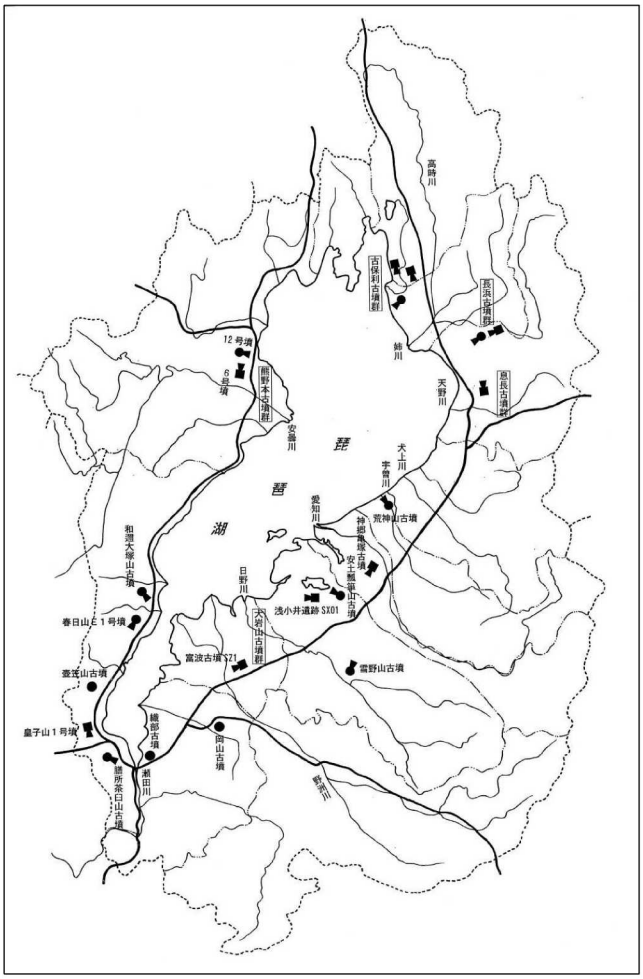
これまでの４度の調査は、古墳の全体からみればわずかな範囲ですが、それでも大きな成果を得ることができました。まず、荒神山古墳の年代については、古墳の形態や墳丘の構築法そして埴輪などから古墳時代前期末（４世紀末）頃に位置付けることができました。また、全長 124m という規模は、近江八幡市の安土瓢箪山古墳（あづちひょうたんやまこふん）に次ぐ滋賀県下第２の前方後円墳であることが明らかになりました。

その他の大きな特徴は、次の３つに要約できます。

① これまで彦根市を含む湖東地域北部は、大型の首長墳が知られない地域でした。しかし、荒神山古墳の発見により当地域にも有力首長の存在したことが判明しました。

② 荒神山古墳は３段築成の墳丘を備え、埴輪を巡らせて葺石で覆うなど、大和中枢部に築造されたものと同一の様式を持つことから、大和とも深いつながりのある首長墳であることが明らかになりました。

③ 荒神山古墳は琵琶湖に向かって眺望が開けており、琵琶湖を意識した築造となっています。この頃築かれた前方後円墳には、安土瓢箪山古墳のほかにも膳所茶臼山古墳（大津市）などがあり、ともに琵琶湖を望む湖上交通の要衝に築かれているという共通点があります。琵琶湖の湖上交通の権益に深く関わった首長だったと考えられます。



近江の前期古墳位置図

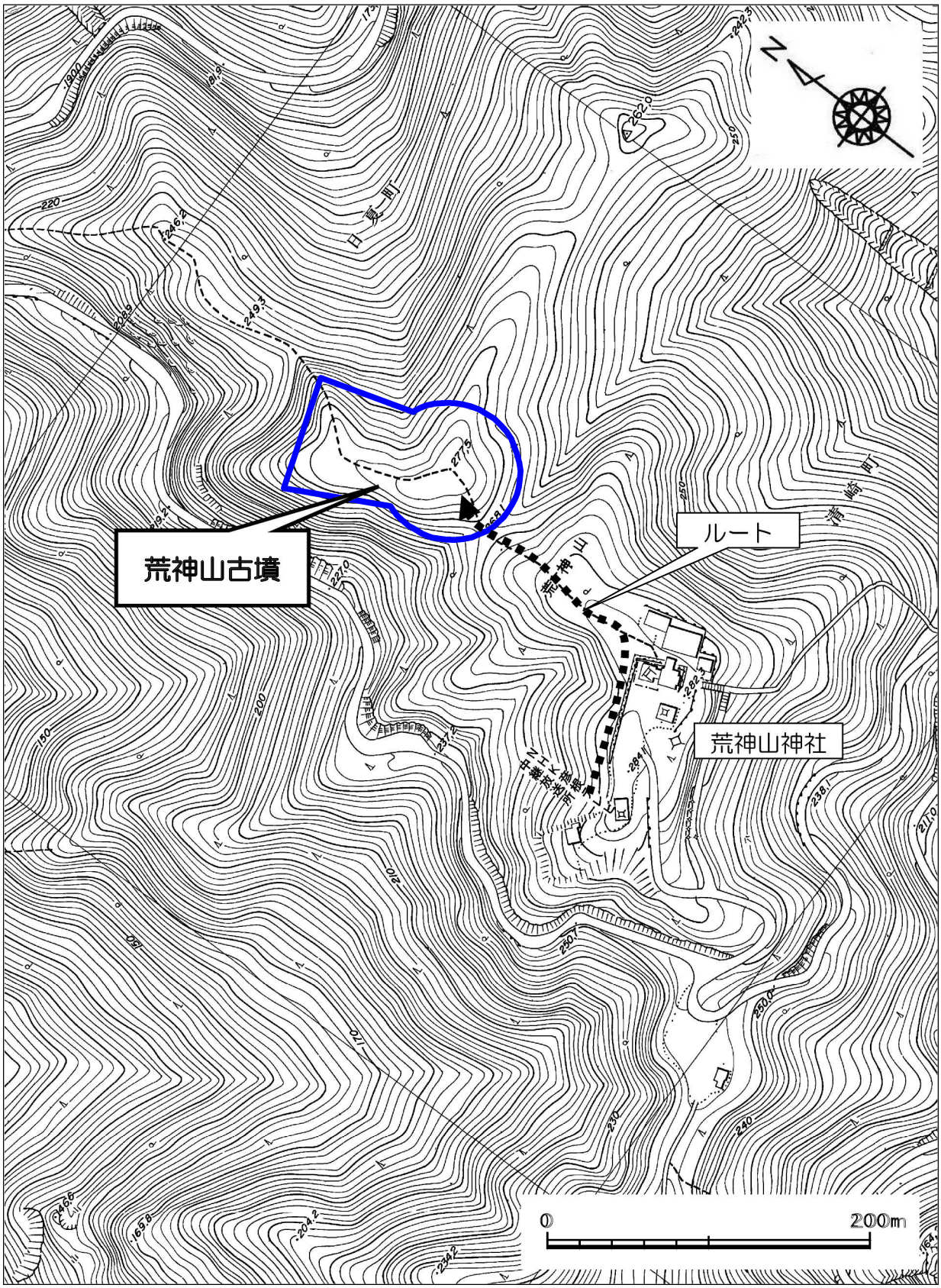
彦根市教育委員会

文化財部

文化財課

0749-26-5833

≪荒神山古墳位置図①≫

N
琵琶湖
滋賀県
琵琶湖
彦根市
荒神山
須越町
三津屋町
曽根沼
彦根市
荒神山
荒神山古墳
石寺町
甲崎町
西川町
岡部町
田原町
金田町
出路町
稲里町
金
稲
清崎町
賀田山町
千尋町
楡町
甘呂町
日夏町
0
2000m

≪荒神山古墳位置図②≫